

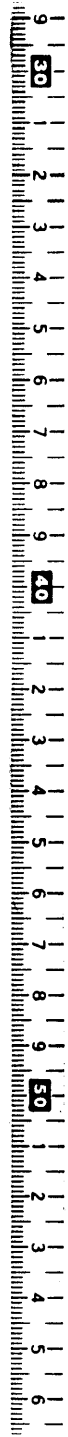
電子複写不可

昭和二十二年十一月三十一日

独立混成第十五聯隊为天隊陣中誌

台
沖 組
351

防衛研修所図書館



116

獨立混成第十五聯隊第二大隊

陣中日誌

軍
自昭和三年一月一日
至昭和三年一月三十一日

wdc
86011

Land #
1984

69422
R# 20466
Circ-89-CR.0202
B-23 54 JULY
OKINAWA 2

重訂
自昭和三十年一月一日
至昭和三十年一月三十一日

陣中日誌

獨立混成第十五聯隊第二大隊本部

陣中日誌ノ例式

第一 陣中日誌ハ左ノ諸部團隊ニ於テ作ルヘキモノトス

大本營ノ各部(郵便部ヲ除ク)高等司令部(編制上各部ニ區分スルモノハ其各部毎ニ但郵便部ヲ除ク)兵站監部ノ各部、兵站司令部、聯隊、大隊、獨立中隊、砲兵聯隊、段列、堡壘團、獨立堡壘、獨立砲臺、電信隊、衛生隊、病院、縱列監視隊、兵器廠、豫備員、豫備廠、患難輸送部、馬廠

留守司令部及補充諸部隊ニ在テハ右ノ區分ニ應シ留守日誌ヲ作リ首トシテ第三項乙ニ掲クル項目ニ準シ記載スヘシ

第二 陣中日誌及留守日誌ハ諸隊團隊勳員令受領ノ白ヨリ記載スヘキモノトス

特別部隊等ニ在テハ先ツ到着セシ將校又ハ同相當官之方記載ヲ始メ後ニ之ヲ主任者ニ移スモノトス

第三 之ヲ作ル日約在二項ニ在リ

甲、各人若クハ諸部團隊ノ經歷若クハ遭遇シタル實況ヲ記載シ
一ニハ戰史、用ニ資シ一ニハ各人ノ勤勞ヲ他日銓衡スルノ參
考ニ供ス

乙、編制教育、補充給養衛生武器彈藥器具材料被服裝具
等凡テ軍事事關スル事物ノ經驗ヲ錄シ將來改良ノ材料ト爲ス

第四

甲ノ目的ヲ達センハ左ノ諸件ニ注意シテ記載スヘシ

- 一、命令、訓令、通報(機密作戰日記ニ記載セタルハ軍簡要要領ノミヲ
摘載シ其詳細ハ該作戰日記ニテルコトヲ附記スヘシ)
- 二、毎日ノ往、止(某地ヲ去テ某
地ニ留ル等)
- 三、行軍、宿營事關スル事項
- 四、戰鬥、景況(戰鬥、額未ヲ記載スヘキモニテ陸接部隊ト關係及緊要
ノ時機ニ於ケル部隊位置、略圖ハ殊ニ明確ニシムルヲ要ス)
- 五、戰鬥間ニ生シタル事件

以上ノ事ヲ記スルニガリ時刻ヲ詳記スルコトヲ忘ル可ラス又以上ノ事ニ
關シ自己ノ部隊ニ影響音セシ事項(天候、地形ノ險易、道路、良否、人
家ノ多小等ノ類)ハ簡短ニ附記セサル可ラス

六所屬セシ軍隊ノ區分(省大隊ハ前夫アリ或ハ
本隊先頭ニ在リ等)

七人員ノ異動

轉任死傷等將校ハ官名ヲ錄シ下士卒及馬匹ハ共數ヲ錄ス

八休戰中ノ宿營

九野戰作業等ノ施設

十其他凡ソ其一日間ニ生セシ緊要ノ事項

第五 乙ノ目的ヲ達センハ左ノ諸件ニ注意シテ記載スヘシ

- 一、武器彈藥、器具、材料、被服、裝具等ニ關スルコト
- 二、編制及諸規令ノ作戰上ニ及ホシタル影響音等
- 三、補充給養及衛生上ニ關スルコト
- 四、教育及軍紀ニ關スルコト
- 五、非常ノ時機ニ際シテ爲シタル非常ノ處置例ハ敵地ニ在テ
住民ニ多額ノ罰金ヲ課シタル等

第六

高等司令部、諸部隊諸官解リ到達セル命令、訓令、通報及之

ニ送呈セル報告、詳報其他死傷表、武器彈藥損耗表或ハ前哨等ヨリ至レル報告等ハ凡テ其要領ヲ摘ミ記事ノ後ニ低書シテ参照ニ備フハシ但各原本ハ種類毎ニ一括シテ保存スヘシ

秘密ニ屬スル特別任務等ニシテ當時之ヲ日誌ニ掲載スル能ハサルモノト雖モ其妨ヤキニ至テハ成ルヘク詳細ニ其顛末ヲ記載スルモノトス

第七 凡ソ此ノ日誌ハ月日時(順序ヲ逐ヒ)ト地名トヲ明記セサル可ラス而シテ諸部團隊ノ長(或ハ參謀長)之ヲ點檢シ毎日記載ノ結尾ニ捺印或ハ華押スヘシ

第八 此日誌ハ諸部團隊復員完結ノ日ヲ以テ終局ト爲シ直ニ一本ヲ騰寫シ順序ヲ經テ陸軍省ニ原本ハ其部隊ニ格納スヘシ

陸軍省ハ此日誌中ヨリ所要ノ事項ヲ抄録シテ之ヲ保存シ他ハ皆參謀本部ニ送り之ヲ陸軍文庫ニ格納スヘシ

第九 此例式ハ必ス陣中日誌ノ巻首ニ貼付スヘシ

一月一日晴 一九一九年三月 校庭ニ於テ元且逢拜式ヲ左ノ如ク舉行ス

一 整列	一 隊長臨場
一 敬禮	一 皇居遙拜
一 萬歳奉唱	一 訓示
一 解散	一 敬禮
一 解散	一 解散
一 昭和二十年、迎元ニ方リテ大隊長將兵ニ與タル要緊事項左ノ如シ	
一 健康ニ注意	
一 軍紀風紀ノ嚴正	
一 左記	

勤務員 現

一月二日晴
曇
後
夜

〇九〇〇空襲警報發令
 沖繩本島全地區
 B-29一機中飛行場上空ニ在リ
 球一六六部隊長
 四三〇〇左記情報ヲ受テ(R電)
 B-29一機〇九〇〇沖繩本島南方ヨリ侵入南半全般言リ偵察後
 糸満南方ニ脱去セリ高度一萬米投擲ナシ戰果ナシ
 一〇四〇警戒警報解除
 沖繩本島地區
 球一六六部隊長
 日直下士官 陸軍軍曹 藤井光男
 人員 將校以下 二八名
 馬 匹 三頭
 軍 犬 二頭

関中尉一三〇〇〇〇地區隊内陣地状況ヲ視察シ一七〇〇歸隊ス

勤務員 現

一月三日晴
濃
曇
次

二午後ヨリ一般ニ休養セシム
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信
 人員 將校以下 二八名
 馬 匹 三頭
 軍 犬 二頭

〇九〇〇北飛行場南方附近ニテ爆彈ヲシキ音アリ

〇九一五空襲警報發令

中・北飛行場附近上空ニ敵艦載機數機ヲ見テ急降下爆撃機ニ機

銃掃射アリ

〇九三〇屋宜上空ニB-29アリ(情報)

〇九五五那霸無電台附近ニテ所火災アリ(情報)

大隊ハ直ニ待機ニシテ

二〇二〇B-29一機中飛行場ニ進入シ本島南半ヲ偵察セリ

四二〇〇旅團ヨリ左記、如キ電話ヲ受ク
 左記
 旅團長注意事項
 本日、敵機ハ小型シテ艦載機ナリ故ニ今後厚シク空襲アルモ上隊想メ
 各隊ハ對空準備ヲ先備スルニシ
 五二〇五南西地區空襲警報解除
 下達命令六井上隊命令
 一月三日
 井上命第一號
 陸軍中尉 山下寬治
 右駐屯地會報出席スル爲明日中隊村球第一八〇〇部隊ニ出席命令
 (即日歸隊)
 二明日上番衛兵ヨリ喇以テ増加服務セシムシ
 三明日勅諭奉讀式ヲ舉行ス
 仍テ左ノ通り心得ヘシ
 一、整列ヲ九〇〇場所校在

勤務
 現員
 二隊長臨場 校在
 三勅諭奉讀
 四訓示
 五解散
 日直下士官 陸軍軍曹 藤井光男
 人員 將校以下二八名
 馬匹 二頭
 軍火 二頭
 一月四日晨
 一〇九〇〇校在ニ於テ勅諭奉讀式ヲ舉行ス
 二式終了後花岡兵長以下二名捲休構築作業ヲナス
 三二〇〇四 沖繩本島地區空襲警報發令
 大隊八道子ニ待避ニシ
 四二〇〇沖繩本島地區空襲警報解除

五、本旨左記、如ク種林、保管轉換ヲナス			
被保管轉換部隊	區	分	相數
隊第一五〇部隊	四〇時入	四〇〇	一六〇〇〇〇
隊第一五三六部隊	六〇時入	六〇七	四〇〇二〇〇〇
六、獨立混成第四十四旅團命令			
一、旅團八日午前地區廢置物件ノ輸送ヲ促進セントス			
二、各部隊ハ廢置物件ヲ別紙要領ニ依リ地方馬車ヲ以テ之カ輸送ヲ實施スヘシ			
三、細部ニ関シテハ松井中尉ヲシテ指示セシム			
旅團長 鈴木少將			
七、獨立混成旅團第一號別紙放草			
一、北地區隊等本計四二旅團中繼輸送ヲ不利トスル場合ハ團頭即チ馬車ニ依リ直送妨ケス、但シ直送輸送ヲ實施セル場合ハ其旨ヲ着手納送線所長又ハ伊波集積所長ニ通報スルモトス			

受領
獨立混成旅團
第一號別紙

勤務員	日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信
人員	將校以下 二八名
馬匹	三頭
單犬	二頭
一月五日雲一又三ヨリ塩原軍曹以下四名掩体構築作業ヲナス	
渡慶次 副官駐屯地會報出席、爲一ニ〇發一八〇歸隊ス	
下達命令 井上隊長 命	
一月五日	
陸軍衛生兵長 越田外治	
右者入院患者護送、爲本五日ヨリ一泊二日、豫定ヲ以テ喜舍場	
山第三四八七部隊ニ出張ヲ命ス	
陸軍上等兵 三村 義雄	
右者事務連絡、爲本五日ヨリ二泊、豫定ヲ以テ今歸仁村ニ出張	
ヲ命ス	

一月五日雲一
渡慶次
下達命令
井上隊長

會

報四井上隊會報

一月五日

三

陸軍中尉

關太郎

右者事務連絡、爲本日恩納村出張ヲ命ス(即日歸隊)

一、明六日一五〇ヨリ四種混合隊防接種第二回ヲ實施スルニ付各隊事

故者、絶無ヲ期スルコト

一、五〇本部、一五二〇二機、一六〇第六中隊、一六三〇第四中隊

第一回事故者、明六日一五〇ヨリ實施ス

二、勞務者及輸送ノ狀況ヲ左記ニ依リ報告スヘシ

前月末日ヨリ九日迄ヲ十日ニ

十日ヨリ十九日迄ヲ二十日ニ

二十日ヨリ月末(目前迄)ヲ月末ニ

日直下士官 陸軍軍曹 藤井光男

現勤員

人員 將校以下 二八名

馬匹

三頭

軍犬

二頭

一月六日曇 一〇七三〇副官今歸仁(出張)爲出發ス
淺慶次 一八〇〇〇 塩原軍曹以下三名青年學校勤勞奉仕隊二十三名ヲ指

揮シ交通壕掩体構築作業ヲナス

三、一四〇警戒警報解除セラル

四、旅團司令部ヨリ亂數表六冊受領ス

五、本日左記ノ如ク糧秣、保管、轉換ヲナス

被保管轉換部隊	區	分	梱數	數	重量
球第一四三部隊	六〇斤入麻袋	三八三	二二九	八〇〇	〇
球第一二五部隊	四〇斤入	一二五	五〇〇	〇	〇
球第二七三部隊	六〇斤入麻袋	五八三	三四九	八〇	〇
球第三四三部隊		五八三	三四九	八〇	〇

下達命令 井上隊命令

一月六日

井口命第三號

一、陸軍中尉 山下寬治

右者事務連絡、爲本六日ヨリ二泊、豫定、以テ今歸仁ニ出張命令

日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

將兼人員 將校以下二八名

馬匹 三頭

軍犬 二頭

勤務員

一月七日曇
夜 變次

一、〇八〇ヨリ 塩原軍曹以下四名 青年學校勤務奉仕隊 手名 押シ陣地
構築作業ヲ實施ス

二、三〇〇圓頭ヨリ 運送セシ 築管用 板材二五〇束ヲ 大原軍曹以下十一名ヲ
シテ比謝川埠頭ニ派シ受領セシム

三、一五〇聯隊通信重構成作業隊 鶴岡伍長以下十五名 通信網構成、
爲來隊ス

下達命令四井上隊命令

一月七日

井口命第四號

一、明日陸軍給ハ平常通トス

二、陸軍上等兵 片桐角一

陸軍一等兵 東 宗間

同 大木 弘

右者軍馬裝蹄、爲明白即日歸隊、以テ中城村球第

七三六部隊ニ出張命令ス

會報 五井上隊會報

一月七日

一、近日中ニ兵器移動修理駐來隊ニ付テ各隊ハ明日一五〇迄ニ

修理ヲ要スル兵器品目及員數ヲ調査本部迄提出ス

日直下士官 陸軍軍曹 宮崎塔二

人員 將校以下二八名

馬匹 三頭

軍犬 二頭

勤務員

現

百合小南盛
又ハ發前島技術任長兵器保會同為聯隊本部到ル
渡慶次 二〇九〇リ 詔書奉讀式ヲ舉行ス

三、通信重機成作業隊通信網構成ニ着手ス

四、片桐上等兵以下三名軍馬裝蹄、為部隊本部ニ出張、度二六〇歸
隊ス

下達命令五 北地區隊命令 一、八、一五〇〇
渡慶次校

井作命第一號 別紙

下達命令六 井上隊命令 一月八日

井日命第五號 一、 陸軍軍醫少尉 古賀 明

陸軍衛生上等兵 横山 利治

右者明九日ヨリ二泊三日豫定ヲ以テ衛生材料調査並受領、為

今歸仁村ニ出張ヲ命ス

日蓮下士官 陸軍軍曹 藤井 光男

現勤員 人員 將校以下二八名

別紙

井作命第一號

北地區隊命令

一、八、一五〇〇
渡慶次校

一、北地區隊ハ二六〇高地陣地必要ナル築城材料ヲ伐採集積セントス

二、各隊、別紙計劃ニ基キ伐採ヲ實施シ所定ノ地區ニ集積スヘシ

三、伐採ニ當リテハ濫伐ヲ戒シムルト共ニ特選地守備隊ト協定實施スヘシ

四、予ハ渡慶次地區隊本部ニアリ

北地區隊長

井上大尉

下達法 命令受領者ヲ集メ印刷配布

報告通報先 44 GBS 東南地區隊

并命第... 別紙

北地區隊區材伐採計劃

隊別	區	分	伐採地區	伐採集積期日及場所
橋本隊	φ20 ^{cm} × 230 ^{cm} φ10 ^{cm} × 250 ^{cm}	五二本 三三〇本	一 圖上塩屋一田佐原 北地區ニシテハニ 高地北側附近	一 伐採期日 一 十日ヨリ一月十八日ニ至ル間
中田隊	φ10 ^{cm} × 250 ^{cm} φ20 ^{cm} × 230 ^{cm}	三三〇本 二二二本	二 恩納村地区トス	二 集積場所 親志南端ニ又路東側
西村隊	φ20 ^{cm} × 230 ^{cm} φ20 ^{cm} × 220 ^{cm} φ10 ^{cm} × 250 ^{cm}	一六本 三六本 三三〇本	三 神谷小隊ト協定 五ノハシ	三 二月十八日各隊係員立會ニ本部関 中尉ニ引渡ス
梅木隊	φ20 ^{cm} × 220 ^{cm} φ10 ^{cm} × 250 ^{cm} φ10 ^{cm} × 210 ^{cm}	二六本 一一〇本 五五本	四 伐採細部ニ關シテハ各隊於テ計畫實施 ス	四 伐採細部ニ關シテハ各隊於テ計畫實施 ス

備考 一 伐採完了後遠ニ經理室ニ於テ一括シ恩納村役場ニ支拂ラスハシ
二 區材ニ伐リタル残リノ未木ハ燃料トシテ使用スルニ付各隊毎ニ取マテ經理室ニ納入ス

馬匹 三頭
軍犬 二頭

一月九日 兩
渡慶次 二〇九〇空襲警報發令

敵機近接ノ後アリ

三〇〇〇空襲警報解除

四 各隊共依然任務ヲ續行シ、敵機來襲ニ待避ス、本業ヲ實施ス

五 副官今歸仁村ハ出張中、處五〇歸隊ス

六 古賀軍醫少尉外一名今歸仁ハ出張ス

七 五〇警報解除

下達命令六并上隊命令 一月九日

井原第六隊 一六〇高地糧秣庫衛兵左通、服務スヘシ

第五中隊 長以下八名

勤務 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信
人員 將校以下二八名

馬 匹 三頭
軍 犬 二頭

月十日曇 〇八三〇時 塩原軍曹以下二名陣地構築作業ヲナス
渡慶次 獨之混成第四十四旅團命令(抜萃) 一〇一五〇〇
獨之混成第四十四旅團命令(抜萃) 一〇一五〇〇
命第四旅 一旅團六隊經衣第五六六及第六二六號二旅リ引繼糧秣二部ヲ保換
轉換セントス

北地區隊長八喜名及山田野戰倉庫引繼糧秣中ノ云米ヲ別紙
ノ如ク軍直諸部隊ニ保管轉換スヘシ

旅團長 鈴木少將

下達命令云井上隊命令 一月十日
別紙

獨混四旅作命第四號別紙

受部	隊	引繼場所	保管轉換數量
球第一二四三部隊	全	菅名	五〇〇〇〇斤
〃 二七三部隊	全		三五〇〇〇
〃 一五二六部隊	全		四〇〇〇〇
〃 二七二部隊	全		三五〇〇〇
〃 一四二五部隊	全		三五〇〇〇
〃 一二四二七部隊	全		二二〇〇〇
曉 八八七部隊	全		一一〇〇〇
球第九七三部隊	全		三〇〇〇
〃 一八八七部隊	全		一〇〇〇〇
〃 一六六一九部隊	山田		五〇〇〇
〃 九一七三部隊	全		四〇〇〇
〃 一六六二六部隊	全		二〇〇〇
〃 一九一〇部隊	全		一六〇〇
〃 一〇一〇部隊	全		二〇〇〇

球第七八三六二隊火隊

別紙

井日命第七號

井上隊命令

一月十日

陸軍中尉 關太郎

右署駐屯地會報出席、為明十日屋宜球第(八八〇部隊)出張
命(即日歸隊)

第五中隊

陸軍一等兵 秋原重雄

右署大隊本部勤務命令

井上

勤務員

日直下士官 陸軍軍曹 宮崎啓二
人員 將校以下 二八名

馬匹 三頭
軍犬 二頭

勤務員

一月十日曇、關中尉駐心地會報出布、爲ハハ口旅團司令部ニ出表ス
一 陸軍軍曹以下五名陣地交通壕構築作業ヲ了ス

二 宮崎軍曹以下二名櫻林分散、爲二六〇高地到リ該分散ノ處置ヲ
ナシ一六〇歸隊ス

三 聯隊通信班鶴岡伍長以下十三名ニ依リ引續キ重構成通信網
讀谷山第二交換ト、連絡開通シ本日ヲ以テ作業ヲ終了ス

勤務員

日直下士官 陸軍軍曹 藤井光男
人員 將校以下 二八名

馬匹 二頭

軍犬 二頭

一月十二日曇
二、獨立混成第十五聯隊命令

受領
一、旅團一軍需品、管理、補給、其現地自治施設ヲ擴充強化ス

獨混五作命
二、聯隊、獨混四旅団命令第三號ニ基キ一月十五日一四〇〇迄ニ所要ノ兵力

第四號
ヲ旅團司令部ニ差出シ先任主計將校、指揮下ニ服務セシメントス

三、各隊長左記、如ク經理業務適任者ヲ選定シ前項勤務ニ服

務セシムヘシ

左記

II

下士官一、兵六

獨立混成第十五聯隊長 美田大佐

下達命令三、井上隊命令 一月十二日

井上命第八號 陸軍中尉 間片謙三

現勤 員 務

右者中頭北地區駐屯地會報出陣、爲本十日、隊第三四五部隊ニ
出張命令(即日歸隊)

日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

人員 將校以下二八名

馬匹 三頭

軍犬 二頭

一月十日曇
一、塩原軍曹以下七名陣地構築作業ヲ實施ス
二、本日左記、如ク糧秣、保管轉換ノヲス

被保管轉換部隊區	分	梱數	數	斤	量
隊第八八七部隊	五〇〇	三〇〇〇	〇〇		
六〇〇入麻袋					

下達命令三、井上隊命令 一月十日

井上命第九號 陸軍伊長 島田哲夫

陸軍兵長 緒川英二

現勤員務

右者事務連絡、為明十四日ヨリ二泊、豫定、以テ各歸仁村ニ出張ヲ命ス

一、陸軍上等兵 金高正幸

右器材受領、為本十四日即日歸隊、又テ中城村隊第七八三六部隊ニ出張ヲ命ス

日直下士官 陸軍軍曹 宮崎啓二

人員 將校以下 二八名

馬 匹 三頭

軍 犬 二頭

百十四日曇
没慶次
受領
獨混五旅命
第廿六號

一、温原軍曹以下五名ヲ入ヨリ陣地交通壕構築作業ヲナス

二、南地区隊命令(拔萃)

一、軍八月十五日ヨリ五日間、豫定、以テ兵器移動修理班ヲ地区隊ニ派遣ス

二、地区隊ハ速ニ兵器(銃器)ヲ加修シ整備ノ完備ヲ期セントス
三、各隊ハ兵器檢査結果ニ基キ要修理兵器ヲ取纏メ十四日一二日迄ニ兵器委員ニ差出ス

南地区隊長 美田大佐

三、獨立混成第十五聯隊命令(拔萃)

一、聯隊ハ二部彈藥ヲ旅團ニ返納セントス

二、各隊ハ莫ニセル彈藥整備要領ニ基キ自隊ニ於テ保有スル彈藥ヲ整理シ過剩ナル彈藥ヲ兵器委員ニ交付ス

獨立混成第十五聯隊長 美田大佐

四、獨立混成第十五聯隊日日命令

一、第六中隊 陸軍衛生兵長 有賀孝雄

衛生部下士官勤務ヲ命ス

五、井上隊命令

一月十四日

別紙

受領
獨混十五旅命
第一三七號
下連命令
井上第一號

受領
獨混五旅命
第八號

會 報六井上隊會報

一月十三日

（北飛行場ニ於テ左記ノ通り爆破作業ヲ實施スルノ旨承認スシ

左記

毎日 自一二〇〇 至一三〇〇
自一七〇〇 至一八〇〇

目置下官 陸軍軍曹 藤井 光男

人員 將校以下 二八名

馬 匹 三頭

軍 犬 二頭

現 勤 員 務

別 紙

井上命 第北隊

井上隊 命令

一月十日

左ノ通り日道將校服務スヘシ

一六	吉川 准尉	二四	田開 曹長
一七	田開 曹長	二五	大門 中尉
一八	大門 中尉	二六	田村 少尉
一九	田村 少尉	二七	木村 曹長
二〇	木村 曹長	二八	川合 少尉
二一	川合 少尉	二九	中野 中尉
二二	中野 中尉	三〇	吉川 准尉
二三	吉川 准尉	三一	田開 曹長

二、第四中隊

陸軍伍長
陸軍一等兵

中山 水谷 金谷 中本
岸野 野野 野谷 野瀬
貴利 喜助 雪告 正
夫美 平由 男雄 郎道

同 第五中隊
同 第六中隊

同 同 同 同

右者旅團野戰倉庫二分遣、命入
明十五日、四〇〇〇名、旅團司令部刻、先任三計將校、巨署、受命シ
服装、八軍裝、シテ個人裝備先備
三、本職明十五日、越來國民學校、於テ實施、サレテ對空投戰、普及教育ニ參加ス
四、

陸軍大尉
陸軍中尉

精田 橋本 城安
西村 又次 郎
梅木 正三 郎
大野 清大 郎
中野 清大 郎
神谷 秀治
原田 政治

右六專習員トシテ對空投戰、普及教育ニ參加シ命ス

二月十五日、兩、大隊長、関中尉、各中隊長、先任將校、〇七〇、出發對空投戰、開
淺慶次
普及教育ニ出席ス

下達命令、三、井上隊命令、
一月十五日
陸軍中尉 關 太郎
陸軍兵長 花岡 剛三

井上隊第一號
右者彈藥返納、爲明十六日ヨリ、三治、豫定、以テ今歸仁村ニ出張
ヲ命ス

會 報 四、井上隊會報
一月十五日
（明後十七日早朝本部ヨリ、渡具知ニ築營材料、船入港、正付各隊、左記
、通り同日早朝渡具知ニ派シ、揚陸作業ニ在セシムハシ

左 記
第四中隊 將校一 下士官以下 二〇
第六中隊 同 一 同 二〇

勤務員	日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信
現員	人員 將校以下 二八名
	馬匹 二頭
	軍犬 二頭

第二機関銃 同 一 同 一

一月十六日 兩 一 関中尉以下二名 〇七〇 出發今歸仁村に張ス
 渡慶次 二 征矢上等兵以下五名 陣地交通壕構築作業ヲナス
 勤務員 日直下士官 陸軍軍曹 藤井光男
 馬 一 馬 一
 人員 將校以下 二八名
 馬匹 三頭
 軍犬 二頭

勤務員	日直下士官 陸軍軍曹 官崎啓二
現員	人員 將校以下 二八名
	馬匹 三頭
	軍犬 二頭

一月十七日 曇 一 獨混五隊命第六號 依ル兵器修理 爲該修理品運搬自動員車 〇八〇
 渡慶次 本部 〇〇到着 〇九〇 前島技術伍長同乘シ聯隊本部ニ運搬ス
 陣地構築 二 〇九〇 〇 塩原軍曹以下四名 陣地構築作業ヲナス
 下達命令 二 井上隊命令
 一月十七日 陸軍中尉 山下寛治
 一 右者副官會報 北地區駐屯地會報 出陣 爲明十八日 〇 沼澤
 定 〇 三隊第一八〇 部隊球第二五四 部隊 出張ヲ命ス
 二 陸軍技術伍長 前島治雄
 右者兵器修理 爲本十七日 〇 一 沼澤 豫定 〇 〇 中城村球第七三六
 部隊 出張ヲ命ス

一月十九日曇一、塩原軍曹井作命第一號、赤木ノ受領、爲山田到リ一四〇歸隊又

渡慶次三、副官駐屯地會報出席、爲九〇出發旅團司令部出張ス

一月十八日

下達命令三、井上隊命令

陸軍大尉 橋本安弘

右軍ニ於テ實施セラルル對戰車築城及爆藥戰闘普及教育参加ノ
爲本十八日ヨリ一泊二日ノ豫定、以テ那霸市ニ出張ス

四、沖教第二號ニ基テ集合教育参加、爲橋本大尉ヲ那霸ニ出張セシム

日直下士官 陸軍軍曹 藤井光男

人員 將校以下 二八名

馬 匹 三頭

軍 犬 二頭

一月十九日曇一、塩原軍曹以下五名陣地構築作業ヲ實施ス

渡慶次 二、前島技術伍長兵器修理品受領、爲中城村ニ到リ該品受領ス

三、副官駐屯地會報出席中、一五〇歸隊ス

受領 四、獨之瀧隊第十五聯隊日命令 一月十九日

獨之瀧 第一四〇號

陸軍中尉 中野清市

右第五十師團備成要員トシテ台灣軍司令部ニ出向ヲ命ス

乃テ明日日旅團司令部ニ到リ内申少佐ノ指示ヲ受ケシ

下達命令五、井上隊命令

一月十九日

井上隊第四號

陸軍中尉 梅木忠次

右本職ノ代理ヲ以テ中野中尉見送リ、爲明日日那霸出張ヲ命ス

六、副中尉以下二名今歸仁岳張中、處七〇歸隊ス

七、沖策第三號ニ依リ獨之瀧隊第一四〇旅團築城計劃書受領ス

(殊第八八〇部隊ヨリ)

日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

人員 將校以下 二八名

勤務 現 頁

井上

馬匹	三頭
軍犬	二頭
勤 務 員	日置下士官 陸軍軍曹 宮崎啓二
現 員	人員 將校以下二十八名
馬 匹	三頭
軍 犬	二頭

一月二十日晴 中野中尉の九〇中隊發新任地に向
 渡慶次 三 田中衛生任長以下五名陣地構築作業ヲ實施ス
 下達命令 三 北地區隊命令
 渡慶次 二 二〇一八〇
 渡慶次 二 渡慶次 二

別紙

井作命第二編

北地區隊命令

一、二〇一八〇
 渡慶次 二

一 旅團八發具知ヨリ軍需品ヲ輸送ヲ實施ス

二 地區隊ハ所屬ノ兵ヲ發具知ニ差出シ積送作業ヲ援助セントス

三 各隊ハ左記人員ヲ一月二日川台少尉ニ指揮下ニ入ラシムルハシ

第四 中隊
 下士官以下ニ〇

第六 中隊
 下士官以下ニ〇

第三機関銃中隊
 下士官以下 九

四川台少尉ハ前項人員ヲ併セ指揮
 腹蘇少佐ノ指示ヲ受クヘシ
 一〇〇九〇〇道ニ發具知ニ至リ

衣服裝束作業ノ取次トシ食糧携行スヘシ

六 予ハ發慶次地區隊本部ニ在リ

北地區隊長 井 工 大尉

下士官以下ニ〇
 渡慶次 二

一月二十日 晴 一、塩原軍曹以下四名菜管田板村受領、爲り二、山發海具知三到り受
度慶次 領三任ス

二、一〇五丙獲戰備下令 南西諸島全地區

下達命令 三、北地區隊命令

度慶次 二、一〇五

井原命第三彙 別紙

四、二〇空襲警報發令

五、二〇宮古島基點四十度六十料ニ敵編隊脱去中

六、二五空襲警報解除

七、富田主計中尉後發三令歸仁於ニ殘務整理中、度二〇到着ス

下達命令 八、井上隊命令

一月二十日

井原命第三彙 一、井日命第三彙日直將校ヲ左記ニ通り變更ス

二、二日 中野中尉ヲ 刈谷少尉

三、九日 中野中尉ヲ 吉川准尉

二、軍兵器部長狀光視察ニ関シ別紙ニ通り心得ハシ

勤務現員	日直下士官 陸軍軍曹 藤井光男
人員	將校以下 二十八名
馬匹	三頭
軍犬	二頭

別編
北地部隊

北地部隊命令

一、軍情二版ノハ台灣戰況ヲ察見基點五度一三度一A三B二C三D五ヨリナル
敵機動部隊西進ナリ

二、各隊ハ速カニ兵隊ヲ戰備ニ移行スヘシ

三、在ノ如クカマ差出シ對空監視ニ任セシムヘシ

本部

兵一
兵一
兵一
兵二
兵一

四、各隊ハ振盪準備ヲ完了シ至嚴ナル警戒監視ニ下ニ現任務ヲ履行ス
五、予ハ後廢汝地區隊本部ニ在リ

北地區隊長 井上大尉

下達要旨口達後印刷文付
北地區隊

別冊 井田命第五卷

兵器彈藥燃料整備備付部 概況巡視計書表

一月二十二日				日次	場
梅水隊	田中隊	橋本隊	本部	宇野池前隊	
至一四 至一五	至一四 至一五	至一四 至一五	至一四 至一五	一三 一四 一四 一五	歸
101	151	151	201	時間	
座喜味陣地	城山陣地	高志保陣地	部隊着狀況報告 淺藁次 高志保陣地		所

備考一 概況報告ハ概隊長行ノ
二 各隊視察所隊長及兵器係ハ隨從スルニトス
三 概況ニ依リ變更スルコトモアル

二月二十日 晴 一、六三〇空襲警報發令

渡慶次 二、七〇頃ヨリ五乃至十機 編隊ヲ以テ北飛行場帯 沿岸線ヲ銃撃復テ

三、一二〇現在迄地區隊異狀ナシ

受 領 四、一七三〇迄未命令ヲ旅團ヨリ受領ス(B電)

連旨命令 一、各地区隊、本夜海上警備ヲ監視ヲ發ニス

二、本日、戦闘狀況ヲ町司令部ニ報告ス

三、明日、敵機ノ攻撃ヲ豫想シ對空監視ニ遺憾ナカラシム

五、七〇ヨリ一七三〇ニ至ル間ケラマン、主体トスル三十機内外 編隊延三〇機來

襲飛行場ニ投擲セル北地區隊内異狀ナシ

射耗彈ナシ

人員兵器其他異狀ナシ

下達命令 六、北地區隊命令

其命令第四號

別紙

七、七五以後敵機影ヲ認メス

渡慶次

勤務	本夜大氣使用ヲ嚴禁シ對空海上共至嚴ナル警戒ヲナシム
一	八二〇空襲警報解除
二	日直下士官陸軍軍曹 塩原茂信
三	馬車
四	軍犬
五	人員 將校以下二八名
六	馬匹 三頭
七	軍犬 二頭
八	現員

別紙

井作命第四師

北地區隊命令

一・二・三・八・〇
渡慶次校

- 一、ガラムン戰鬥機ヲ主体トシ三ノ機内外ノ敵ハ本日連續沖繩本島ヲ襲撃ス
- 二、地區隊ハ二日一夜及三日ノ敵機來襲ヲ豫想シ海上監視對空警戒ニ萬全ヲ期シ
二日ヨリ降ノ對空戰鬥ノ準備ニ遺憾ナキヲ期セトス
- 三、各隊海岸監視哨ニ二日甲班戰備ニ準シ終夜警戒監視ヲ行ハシ
- 四、各隊ニ二日一夜及三日ヲ對空警戒ヲ至嚴ナクシメ對空戰鬥ニ萬遺憾ナキヲ期ス
- 五、二日一夜兵器被服糧秣其他ノ欠乏掩蔽部ニ退避セシメ至嚴ナル損害ノ絶無ヲ期ス
- 六、二日一夜兵舎ニ於テ假眠ヲ許可ス
- 七、予ハ渡慶次地區隊本部ニ在リ

北地區隊長

井上大尉

下達法、命令受領者ヲ集メ要旨口達後印刷交付
報告通報先 東南北地區隊

二月二十三日晴 塩原軍曹以下五名陣地構築交通壕作業ヲ實施ス
渡 渡 渡 次 三 一三〇大隊長地區内及飛行場ヲ巡視、爲出發二八〇歸隊ス
二六〇警戒戒警報解除

現 勤 員 務
日直下士官 陸軍軍曹 宮崎 益二
人員 將校以下 二八名

馬 匹 二頭

軍 犬 二頭

二月二十日晴 塩原軍曹以下五名陣地構築作業ヲ實施ス

渡 渡 渡 次 三 森岡中尉岩瀬軍曹連絡、爲渡久地ヨリ來隊ス

三 彈藥返納、爲聯隊本部ヨリ自動車到着ス

下達命令 四 井上隊長命令 一月二十四日

陸軍少尉 田村 忠藏

右司令部報並中頭北地區駐屯地會報出席、爲明二十五ヨリ一泊以テ

<p>一月十五日 渡邊次一 副官渡久地出張中、戻り日帰隊ス 勤・務 日置下士官 陸軍軍曹 塩原茂信</p>	<p>一月十五日 塩原軍曹以下五名陣地構築作業・實施ス</p>	<p>現 勤 員 務 人員將校以下二名 馬 匹 三頭 軍 犬 二頭</p>	<p>一 八月十日部隊移第一二四五部隊出張命令ス 二 陸軍准尉 笠島吉衛 右 有月三日、間露營地區巡察將校命令ス 三 陸軍中尉 山下寛治 右事務連絡、為本官ヨリ三浦謙三以下渡久地出張命令ス 陸軍軍曹 藤井光男</p>
---	--	--	---

<p>一月十五日 渡邊次一 大隊長二日出发 聯隊本部出張シ八日帰隊ス 下達命令全井上隊命令 昔令第三張 一本職事務連絡、為本十六日聯隊本部出張ス</p>	<p>一月十六日 関中尉先日聯隊本部出張シ八日帰隊ス</p>	<p>現 勤 員 人員將校以下二名 馬 匹 三頭 軍 犬 二頭</p>	<p>一 陸軍大尉 橋本安弘 右本職不在間大隊長代理命令ス 二 陸軍中尉 間片謙三 陸軍少尉 吉井静夫 同 原田政治 陸軍准尉 吉川定信</p>
---	---	--	---

會
報
四、井上隊會報

一月二十六日
一月二十六日

右一月二十七日聯隊本部ニ於テ實施サレ、對戰車肉攻査閱見學、爲
即日歸隊又ハテ上地ニ出張ヲ命ス

四、
陸軍軍曹 宮崎 啓二
陸軍兵長 船川 洪二

右糧秣受領、爲ニ右、豫定ヲ以テ右護ニ出張、命ス

五、
陸軍中尉 関 太郎
右華務連絡、爲本二十六日聯隊本部ニ出張ヲ命ス

一、來ルテ、對戰車、藥、毒、及爆藥戰術、普及教育ヲ實施ス
依テ左、通心符、シ

一、場所 度慶次校

二、教官 橋本 大尉

三、專習員 分隊長以テ、但、勤務、支障、有者、最少限、殘留、スル、ヲ、得

四、時刻 一三〇分開始

現勤
員務

受領
獨混二五作令
第一二二號

五、携行品 築城敷設、歩兵操典、筆、記具
一、獨之混成第十五聯隊命令、要旨、
一、軍、木造船、造船シ、輸送ヲ、強化ス
二、聯隊、獨混四隊、作、命、第、十、號、ニ、基、キ、所、要、兵、力、ヲ、派、遣、シ、軍
經理部長、指揮、下、ニ、服務、セ、シ、マ、ス
三、各隊長、ハ、左、如、成、ル、可、ク、木、工、經驗者ヲ、選、定、シ、一、月、十、八、日、一、四、〇、分、迄、
嘉手納驛、前、ニ、差、出、シ、軍、經理部長、指揮、下、ニ、服務、セ、シ、マ、ス

左記

II 兵一

獨之混成第十五聯隊長 美田 大佐

日直下士官 陸軍軍曹 宮崎 啓二

人員將校以下 二、名

馬匹 三頭

軍犬 二頭

一月二十七日
獨之混成第十五聯隊命令要旨

一、聯隊ハ現配備將士一部ヲ變更セントス
二、第二大隊ハ嚴ニ企圖ヲ秘匿モツ兵カ及糧藥糧秣資材ヲ逐次
胡屋附近ヲ進退シ越來國民學校附近ニ分散集結シ爾後行動ヲ
準備スルン

集結完了ハ一月二十日天明前トス

獨之混成第十五聯隊長 美田 大佐

下達命令三 第二大隊命令

一、糧秣軍曹以下三名先發シ爲リ九月廿四日發越來國民學校ニ到ル
別紙

下達命令四 井上隊命令

一、第五中隊 陸軍一等兵 坂口正勝
右者軍經理部ニ派遣ヲ命ス

獨之混成第十五聯隊命令要旨

仍之明日(廿一日)迄ニ幕舎前ニ到リ軍經理部長ヲ指揮下ニルル
服裝(軍裝)携帶口糧(甲)自之日分糧藥六分發携行ス
一、軍ハ本島ヲ兵カ配置シ一部變更ス
二、聯隊長ハ九月廿四日迄ニ新移駐地ニ移行シ新任ヲ務メ繼承ス
三、各中隊長ハ明日(廿一日)迄日聯隊本部ニ集合スルン

細部ニ關シテハ別ニ指示ス

四、余ハ九月廿四日高袋發新移駐地ニ到ル

獨之混成第十五聯隊長 美田 大佐

下達命令六 第一大隊命令

別紙
目置下士官 陸軍軍曹 藤井 光男
人員 將校以下ニハ名

獨之混成第十五聯隊命令要旨

發越國民學校

發越國民學校

第五中隊

下士官以下五 (但シテ八百三十三越來國民學校ニ於テ塲原留曹ノ指揮下ニ入リシム)

細部ニ關シテ八團中尉ヲミテ指示セシム

五、各隊ハ兵器彈藥糧秣其他後送及殘者整理ニ當リ左記兵カラ殘置シ森岡中尉ノ指揮下ニ入リシム

大隊本部 勤務衛生部 下士官一 兵一

第四中隊 第六中隊 下士官以下 五

第五中隊 曹長一 兵 五

第三機關銃中隊 兵長以下 三

袖ヶ谷小隊 兵長以下 一

六、森岡中尉ハ前項人員ヲ併シ指揮シ兵器彈藥糧秣其他後送及殘者整理ニ任スルニ任務終了後速ニ本隊ニ返及スルシム

細部ニ關シテ八團中尉ヲミテ指示セシム

七、喜名山田△△ヲ糧秣衛兵ハ引續キ現任務ヲ續行スルヘシ

但シ糧秣保管彈藥後送ニ本隊ニ返及スルシム

八、給食ハ二十七日夕迄部隊給食トシテ八日朝食以降ハ飯金收舞臺トス

九、各隊ハ集積及機動期間特ニ對テ監視ニ當リ或ラ至嚴ナラシメ敵ノ

空襲ニ對シテ萬一遺憾ナキヲ期スルヘシ

一〇、機動ニ當リテハ將校以下特ニ防諜ニ留意シ機密ヲ保持シ萬全ヲ期スルヘシ

一一、二十七日二〇時越來國民學校ニ先行ス

大隊長 井上大尉

下達後 各隊長ヲ集メ隊員口達後印刷配布

取付先 各隊

報告通報先 44 局 50

別紙

井上命令第六號

第二大隊命令

一三三三三三
我軍國軍學校

- 一、大隊は本夜以降暫く現在地宿營し爾後行動に準備せしむ
- 二、各隊は夫々設營者指示依り宿營す
- 三、警急集合場、學校校庭運動場トシ空襲に依り退避地域に關中尉ヲシテ現場ニ於テ指示セシム
- 四、逐次到着す兵器彈藥糧秣ハ對空處置ヲ完全ニシ各隊毎に夫々分散集積スル

五、給養は各隊毎飯盒炊爨トス

六、予ハ學校南側大隊本部ニ在リ

大隊長

井上大尉

下達法、命令受領者ヲ集メ要旨ヲ達後印刷配布

一配布先、各隊

報告通報先、心

百千台 曇

一 出發 爲 諸 準備 ヲ ス

渡 渡 次

二 獨 混 一 五 隊 命 第 二 三 號 三 基 ヲ 要 員 ヲ 第 五 中 隊 ヲ 派 遣 セ ン

三 荒 井 兵 長 大 隊 本 部 荷 物 集 結 爲 荷 馬 車 ニ 載 來 ニ 出 發 ス

下 連 命 令 四 第 二 大 隊 命 令

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

井 夜 命 第 三 號

別 紙

日 直 下 官 陸 軍 軍 曹 塩 原 茂 信

現 勤 員 務

人 員 將 校 以 下 二 八 名

馬 匹

三 頭

軍 火

二 頭

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

列記

并休命第七條

第二大隊命令

越來國天學校

一 聯隊へ所屬ノ教導者ヲ新移駐地ニ先發セシム

二 各隊ハ左記兵力ヲ二十九日ヨリヨ大隊本部ニ差出シ爾中尉ノ指揮下ニ入シメ

新移駐地ノ教導者ニ任セシムヘシ

大隊本部

一 富田中尉

下士官一

兵二

各隊

下士官一

糧秣十日分ヲ携行スシ

三 爾中尉へ前項人員ヲ併セ指揮シ新移駐地ニ先行シ教導者ニ任スヘシ

輸送ニ聯隊首動隊車ニナル

四 越來國天學校南側大隊本部ニ在リ

大隊長

井

上大尉

下士官一人 中尉一人
下士官一人 兵十人
原

四月十九日
山田中尉以下五名先發、為マ九日自動貨車、新在り地(島尻郡)
行 勤

山下中尉以下九名マ九日渡慶次ヲ出發シ集結、為越來國民學校ニ到ル

一 閣中尉以下五名先發、為マ九日自動貨車、新在り地(島尻郡)知念村ニ出發ス

二 本隊ノ環境ノ整理ヲナス

三 獨之尻成第十五聯隊命令要旨

島尻 發

受 領
新在り地
第二七號

一 聯隊本部ノ幹部ヲ新移駐地ニ先行セシメ陣地ノ引繼ヲ實施ス

二 本隊及各種中隊所屬ノ幹部ヲ明三日前新移駐地ニ派遣シ新陣地、引繼ニ任セシム

三 移駐、為旅團ヨリ配屬セラルル自動貨車ヲ明三日前ヨリ月二日迄在、本ノ配屬ス

各大隊 各々一

獨之尻成第十五聯隊長 美田 大佐

受領
獨混五隊
第二八號

獨混五隊
第一八號

一二九一四

旅團二月十日迄ニ知念半島方面ニ轉移シ新防衛作戰地域ニ防衛ニ任ズルト共ニ同方面ニ於テ第六十二師團ニ作戰準備ヲ繼承實施ス

ニ聯隊ノ現防衛任務ヲ第六十二師團ニ移譲シ極力企圖ヲ秘匿シ夜間機動ヨリ新防衛作戰地域ニ轉移セシム

防衛任務相互轉移ノ時機ハ二月一日ハトス

ニ第二大隊ハ二月一日一九日現露塔塔地ヲ發シ

胡屋一高原一津霸一與那原一佐敷村ヲ經テ二月一日天明迄ニ新作戰地域ニ轉移シ防衛ニ作戰準備ヲ繼承實施ス

獨混五隊第一五聯隊長 美田大佐

下達命令ニ第二大隊命令

井本命令ニ

別紙

別紙

井本命令

第二六 隊命令

一 聯隊二月三日ハ現配屬ヲ撤收シ新移駐地ニ移行新任務ヲ繼承ス

二 大隊ハ(次第ニ)三月十日迄現在地發射移駐地ニ前進セントス

三 第五中隊ハ聯隊命令ニ依リ旅團豫備トシテ稱嶺ニ前進シ旅團ニ指揮ニ入ル

四 各隊ハ三月十日以後ニ現指管ヲ撤收シ夜間機動ヨリ二月日迄ニ新移駐地ニ轉移ヲ完了ス

五 山下中尉ハ(次第)旅團到着スルニ至ル程糧秣糶糶其他軍物ヲ新移駐地ニ輸送ス

六 給養ハ二月三日夕食迄飯盒炊爨トシ二月一日朝食ヨリ新隊炊事トス

七 三月三十日迄ノ現在地發射移駐地ニ引續キ新移駐地ニ先行ス

大隊長 井上大尉

下達命令ニ

受領
編五
第ニ九
號

七、獨之混成第十五聯隊命令

一九三〇年
八月

一、旅團之喜瀬、集積地、陣地構築、用杭木ヲ軍輸送船照華丸ヨリ
那覇、船ヲ輸送ス

二、聯隊ノ前項輸送援助ノ爲所要ノ兵力ヲ差出サントス

三、各隊長ニ記入員及兵器彈藥ヲ明三〇日〇九〇〇迄ニ旅團司令部ニ差出シ
松下大尉指揮下ニ服務セシムシ

左記

一、差出兵力 兵器 彈藥

II 將校 下士 兵 下口 附一 一五〇

第一第二大隊ヨリ差出ス下士官兵内ニ機關銃手各ニ一、合ニシテ高射

照準具ヲ携行セシムシ

四、細部ニ関シハ國澤大尉ヲシテ指示セシム

獨之混成第十五聯隊長 美田大佐

下達命令八井上隊命令

一九三〇年
八月